

NEXCO東日本 中期経営計画

(2006 ~ 2010)

2006年10月26日

あなたに、ベスト・ウェイ。



目 次

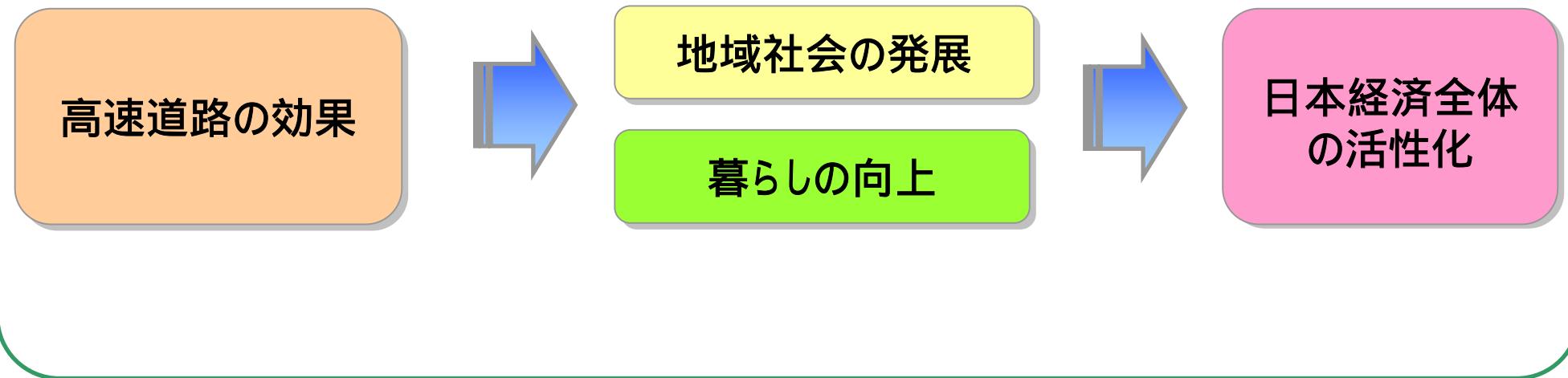


・ 経営理念	2
・ 経営ビジョン	3
・ 経営方針	4
・ 中期経営計画	
- 1 . 基本方針	5
- 2 . 経営目標	6
- 3 . 事業別の取組み	8
- 4 . 経営基盤の確立に向けた取組み	28

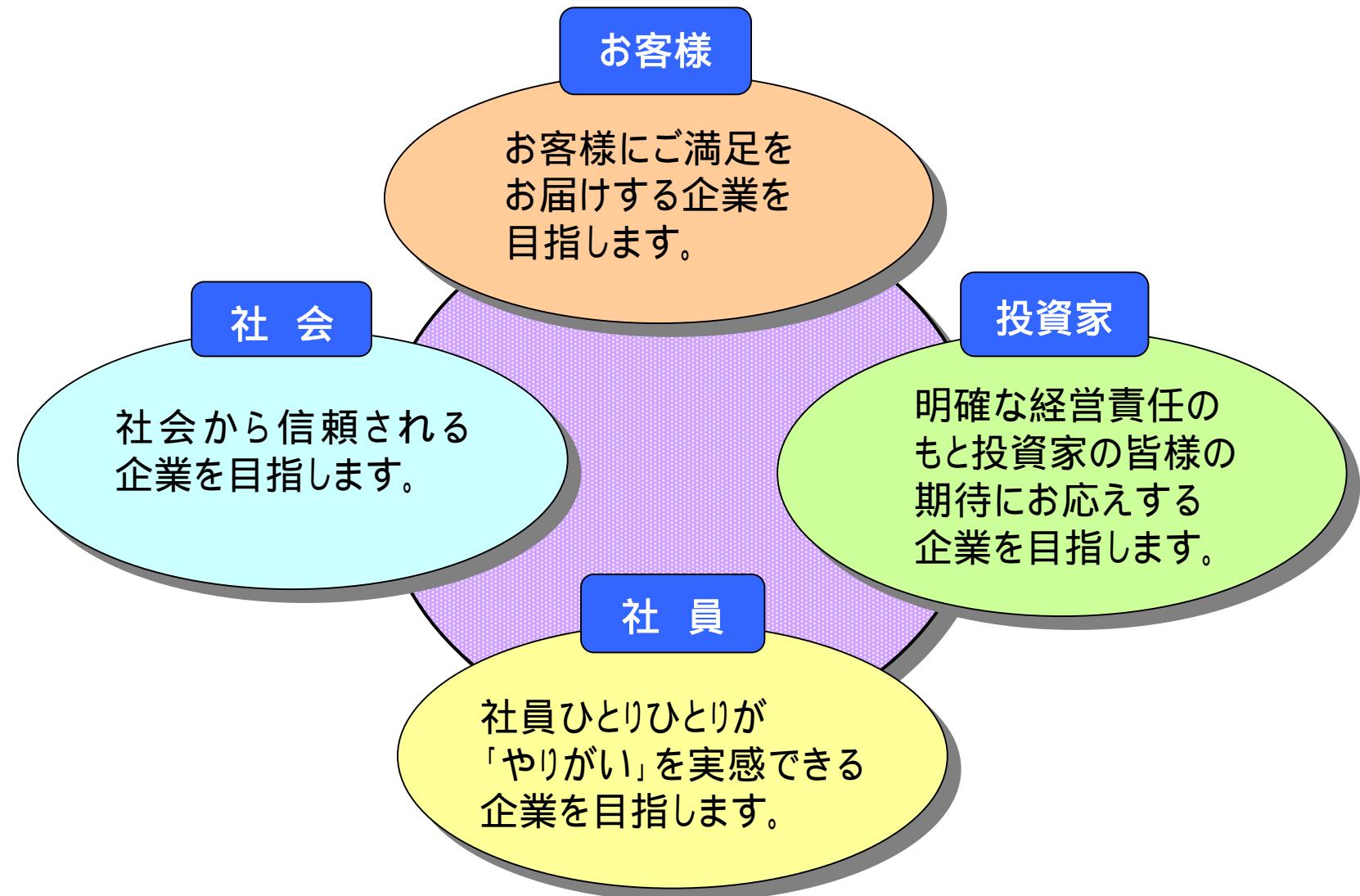
・経営理念



NEXCO東日本は、高速道路の効果を最大限発揮させることにより、地域社会の発展と暮らしの向上を支え、日本経済全体の活性化に貢献します。



・経営ビジョン



・経営方針



- お客様を第一に考え、安全・安心・快適・便利を向上させます。
- 公正で透明な企業活動のもと、技術とノウハウを発揮して社会に貢献するとともに、的確な企業情報の発信を行います。
- 終わりなき効率化を追求するとともに、経営資源を最適に活用することにより、お客様サービスと企業価値を向上させ、健全な経営を行います。
- 社員各自の努力とその成果を重視し、チャレンジ精神を大切にします。

NEXCO東日本は、上記の視点に立って2010年度までの中期経営計画を策定し、民間企業として自立した経営を行うため、自らの経営判断と責任により、財務体質を適正に維持しつつ、経営基盤の確立を図ってまいります。

・中期経営計画



- 1. 基本方針

2006年度から2010年度までを『経営基盤を確立する期間』として位置付け、以下の取組みを確実に実行します。

目標管理制度の導入

目標管理制度を導入し、経営目標の実現に向けた経営マネジメントシステムを構築します。

新人事制度の導入

民間会社にふさわしい新人事制度を導入し、社員のやりがいと会社の業績向上の両立を目指します。

組織体制の再編

現場重視の経営を基本とした効率的な組織体制を構築します。

グループ経営の確立

グループ企業価値の最大化に向け、グループ経営を確立します。

ITマネジメントの確立

ITマネジメントを確立し、IT基盤の効率化、全社最適化を図ります。

- 2. 経営目標

財務目標(連結)

		2006年度見込		2010年度目標
道路管理事業	料金収入	7,119億円		7,650億円
	道路資産賃借料	5,268億円		5,610億円
	管理費用等	1,851億円		2,040億円
	経常利益	0		0
	道路資産完成高	395億円		1,588億円(5年間累計)
	道路資産完成原価	395億円		1,588億円(")
	経常利益	0		0(")
	道路資産完成高	317億円		6,086億円(5年間累計)
	道路資産完成原価	317億円		6,086億円(")
SA・PA事業 新規事業	経常利益	23億円		0(")
				55億円
全社計	経常利益	23億円		55億円
	当期純利益	14億円		32億円



事業別主要目標

事業	内容	数値目標等		2010年度目標
		項目	2006年度見込	
道路管理事業	道路管理延長	道路管理延長	3,388 km	3,609 km
	ETC普及促進	ETC利用率	68%	73%
	ETCを活用した料金割引	料金割引額 (割引前収入の約18.5%)	1,543億円	1,745億円 (割引前収入の約19.4%)
	渋滞対策	渋滞損失時間 万台時間/年	446	440 万台時間/年
	耐震強化	橋脚耐震補強率	82%	100%
	安全性向上	高機能舗装率	55%	68%
道路建設事業	高速道路ネットワークの整備	新規開通延長 (5年間累計)		274 km
		4車線化完成延長 (5年間累計)		36 km
SA・PA事業	SA・PAの利益増	(主要な取組み)	・コンビニ・専門店の積極導入 ・新規エリアの設置 ・農産物等の地域特産物の販売	
新規事業	新規事業の利益増	(主要な取組み)	・ドライブ支援サイトの開設 ・会員カードサービスの開始	



- 3. 事業別の取組み

道路管理事業(その1)

NEXCO

積雪寒冷地を広範囲にかかる中、冬期においても安心してご利用いただける道路を目指すなど、安全で円滑な道路交通を確保するとともに、ETCを活用した弾力的な料金設定など多様なサービスを提供し、効率的で使いやすく地域に貢献できる道路管理を目指します。

1. 安全で円滑な道路交通を確保します。

毎日安心してご利用いただけるよう、道路のきめ細かな日常管理を行います。



《構造物の点検作業》

《路上障害物処理作業》

《交通管制業務》

➤365日、24時間きめ細かな道路管理

お客様に安心してご利用いただけるよう、路面や橋梁、トンネル、施設設備などの維持・点検に努めます。

路上工事による車線規制を減らし、交通の円滑化及び渋滞の減少を目指します。

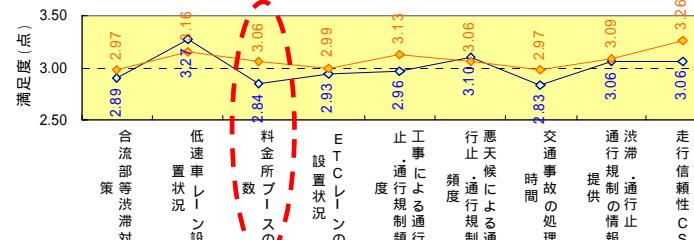
➤お客様に満足いただける道路管理

地域性や路線特性を考慮した顧客満足度(CS)調査を実施・分析し、維持管理事業との関連性を効果検証し、CS向上に努めます。

CS調査により、現状分析と業務への反映

毎年度、維持管理事業に関するCS調査(Web調査)を実施し、CSの現状把握と分析を行っていきます。例えば、走行信頼性CSでは、2004年度と2005年度の比較において、「料金所ブースの数の満足度」が0.2ポイント上昇しました。これは、ETCレーンの整備やETC利用率の増加により、主な料金所の渋滞が大幅に緩和したことが満足度を上げた要因と考えられます。

《事例：2005年度CS調査結果より、走行信頼性CSに関する結果》



《ETCレーンの整備状況》

道路管理事業(その2)



道路の走行環境の向上を図るために、交通安全対策や舗装の高機能化を推進します。

▶高機能舗装率

55%

68%

雨天時の走行環境を向上させるために高機能舗装化を進めます。



《高機能舗装》



《強化型防護柵》



《夜間事故対策の自発光テリニエータ》

▶強化型防護柵整備率

80%

96%

中央分離帯の防護柵を強化型に整備し、重大事故を防止します。



《暫定2車線区間の車線逸脱防止対策の凹凸型路面表示》



《逆走防止の矢印路面表示》



《大型動物侵入防止対策》

▶効果的な安全対策

暫定2車線区間の車線逸脱防止対策を推進します。
夜間の安全対策や脇見運転の防止対策を推進します。
逆走防止対策を推進します。

▶大型動物侵入対策

大型の動物が高速道路に侵入するのを防止します。

道路管理事業(その3)



雪に強い道路を目指すため、雪氷作業や雪氷対策設備の充実を図ります。

▶冬期の交通確保

冬期間の気象変化に対しても極力交通を確保するよう、地域・気象特性に即した雪氷作業を行います。

降雪時の走行性向上のため、防雪柵の設置など、視程障害防止対策を進めます。

▶効率的かつ的確な雪氷対策作業

気象観測に基づく路面温度等の予測精度を向上させ、適時適切な雪氷作業を行います。

効率的かつ的確な雪氷対策作業を実施するためIT技術等を活用した新技術開発を推進します。



(道路特性に応じた雪氷作業)



(防雪柵)



(冬期走行支援としての
自発光スノーポール)

雪氷対策の新技術開発事例

・路面情報測定車

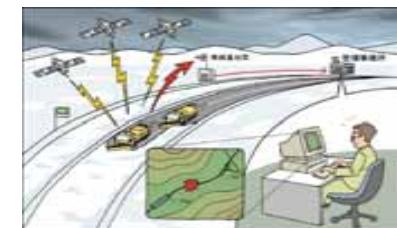
路温計、気温計、塩分濃度計等の各種センサーを取り付けた車両を開発しました。路面状況のリアルタイムデータを収集し、雪氷指令室へ自動送信することができます。また、雪氷車両にこのセンサーを取り付けることにより、リアルタイムデータを基に自動的に適切な凍結防止剤散布量を判断し、散布します。



(路面情報測定車)

・雪氷車両運行システム

GPSの活用により各雪氷作業車両の位置をリアルタイムに把握し、迅速かつ効率的に作業指示を行うための支援システムです。作業記録データを逐次パソコンに取り込みデータベース化することにより、業務の効率化も図れます。



(雪氷車両運行システムのイメージ図)

道路管理事業(その4)



道路の定時性を確保するため、渋滞対策の推進や道路情報提供の充実を図ります。

▶本線渋滞損失時間

446万台時間/年 440万台時間/年

渋滞時速度回復情報や渋滞予測情報の提供を実施するなど、渋滞緩和に努めます。また、関越道 花園IC付近他の渋滞箇所について付加車線設置等の事業を行います。

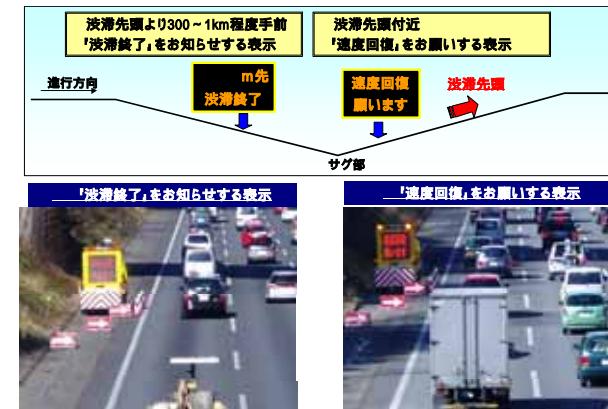
▶道路情報提供の充実

リアルタイムで詳細な道路情報を提供します。

渋滞緩和対策事例 「LED標識を用いた速度回復情報提供によるサグ部等での渋滞緩和」

サグ部や上り坂では、無意識のうちに速度が低下することによる渋滞が発生します。

この対策として、渋滞の先頭付近で速度回復をお願いする情報を提供することにより、渋滞の発生を抑制します。また、渋滞発生時においても走行速度が未対策時より向上し、渋滞が緩和されるものです。



災害に強い道路ネットワークを構築するため、橋梁の耐震補強などの防災対策を推進します。

▶橋脚補強完了率

82% 100%

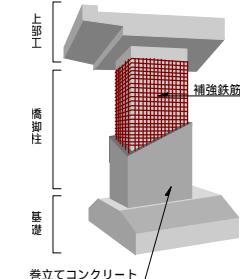
阪神淡路大震災クラスの大地震にも耐えられるよう、対策が必要な橋梁の補強を行います。

耐震補強工事

2005年度に国と都道府県及び高速道路会社が連携して、兵庫県南部地震と同程度の地震動に対して落橋等の甚大な被害を防止するための「緊急輸送道路の橋梁耐震補強3箇年プログラム」を策定しました。



《橋脚の耐震補強》



道路管理事業(その5)



2. ETCを活用した弾力的な料金設定など、多様なサービスを提供します。

ETCを活用した料金企画割引などの料金サービスの展開、ETC諸設備の整備などサービス向上に努めます。

▶料金企画割引

・ETCを活用し、期間や地域を限定した料金割引を実施するなどし、お客さまサービスの向上に努めます。

▶ETC利用促進とサービス向上

ETC利用率 68% 73%

停止処理率 0.21% 0.16%

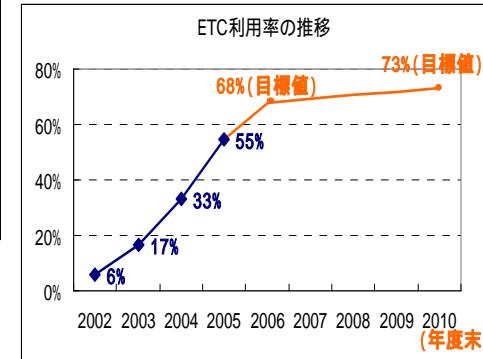
・ETCレーンを増設します(約110レーン)。
・ETCカード未挿入をお知らせするアンテナの設置を推進します。

カード挿し忘れ等のトラブルにより、ETC車が専用レーンで停止、ノンストップ走行できない割合をいいます

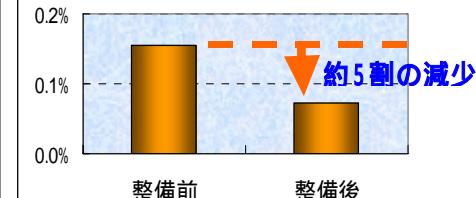
料金企画割引事例

「北海道 ETC夏トクふりーぱす」

2006年夏期に、北海道内の高速道路が週末3日間乗り放題となる料金割引を実施しました。



ETCレーン停止処理率の改善例 (関東地区主要料金所)



《お知らせアンテナの整備効果》

道路管理事業(その6)



3. トータルコストを削減し、効率的な道路管理に取り組みます。

適切な管理水準の検討・実施、ライフサイクルコストの最小化を図るマネジメント手法の定着、新技術の開発など効率的な道路管理を行います。

▶総合保全マネジメントの本格運用

総合保全マネジメントを本格化し、次の事項に取り組みます。

資産の長期健全性とライフサイクルコストの最小化を目指した「アセットマネジメント」の推進

適時適切な維持修繕による望ましい「管理水準」の追求
客観的・体系的な意思決定を行う業務プロセスの構築

▶新技術の積極的採用

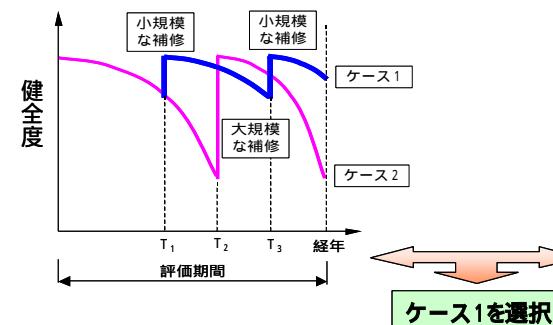
新技術・新工法の採用による効率的な道路管理によりコスト削減に努めます。

事例)点検・計測の高度化により業務の高速化、精度向上を図り、点検コストを削減しています。

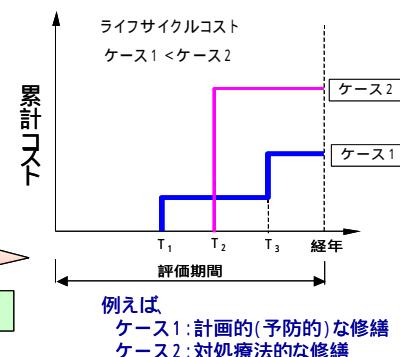
レーザーや最新のCCDカメラを利用した高速クラック計測器の導入

デジタルカメラの画像により、のり面変位計測を実施

健全度: 経年により構造物の健全度が劣化
補修により健全度を確保



コスト: 評価期間におけるコストの総合計

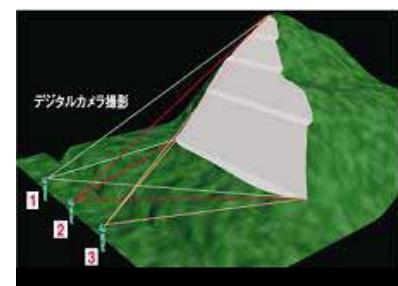


この場合、ライフサイクルコストが小さい、小規模な補修を短サイクルで行う「ケース1」を採択するものです。

（ライフサイクルコスト最小化のイメージ）



《高速クラック計測車による計測状況》



《デジタルカメラを用いたのり面変位計測のイメージ図》

道路管理事業(その7)



4. 道路管理におけるリスクマネジメントを適切に実施します。

緊急時も迅速・適切に対応できるよう、危機管理体制を強化します。

▶ 災害への迅速な対応

大規模災害時にも道路の早期復旧に努め、高速道路が緊急輸送道路として迅速かつ円滑に機能するよう努めます。

▶ 危機管理体制の強化

国や地方自治体との連携を強化し、またマニュアルの整備や適切な防災訓練を実施するなど、危機管理体制を強化します。

不正通行対策を徹底します。

▶ 不正通行対策

不正通行対策本部を設置し、会社をあげて「不正通行は許さない」という姿勢で対策に取り組みます。

不正通行者を特定するための対策用カメラ等の増設

警察への通報、捜査への積極的な協力

法令違反車両の取締りを行います。

新潟県中越地震時の状況



《被災直後の状況》



緊急応急措置

発災後から約19時間で緊急車両の通行車線を確保しました



緊急車両のための片側1車線を確保

発災後から約100時間で緊急車両が迅速かつ円滑に走行可能な通行車線を確保しました



《一般レーンの開閉バー設置》



《法令違反車両取締業務の状況》

道路管理事業(その8)



道路管理事業の計数目標

(億円、消費税抜)	2006	2007	2008	2009	2010
料金収入	7,119	7,222	7,328	7,474	7,650
管理費用等	1,851	1,892	1,906	1,920	2,040
道路資産賃借料	5,268	5,330	5,422	5,554	5,610

(億円、消費税込)	2006	2007	2008	2009	2010	累計
投資計画 (会社資産)	138	203	180	155	158	834

道路建設事業(その1)

NEXCO

地域の発展と暮らしの向上に貢献する、環境に配慮した信頼性の高い高速道路ネットワークを効率的に建設します。

1. 地域の発展と暮らしの向上に貢献する高速道路ネットワークを整備します。

計画的かつ重点的なネットワークの整備

- ▶高速道路の整備を計画的かつ重点的に行い、高速道路ネットワークを形成していきます。

新規供用延長 : 274km

道路資産完成高 : 4,794億円

ネットワーク機能の向上・強化

- ▶高速道路ネットワークの機能向上のため、4車線化を進めます。

4車線化完成延長 : 36km

道路資産完成高 : 469億円

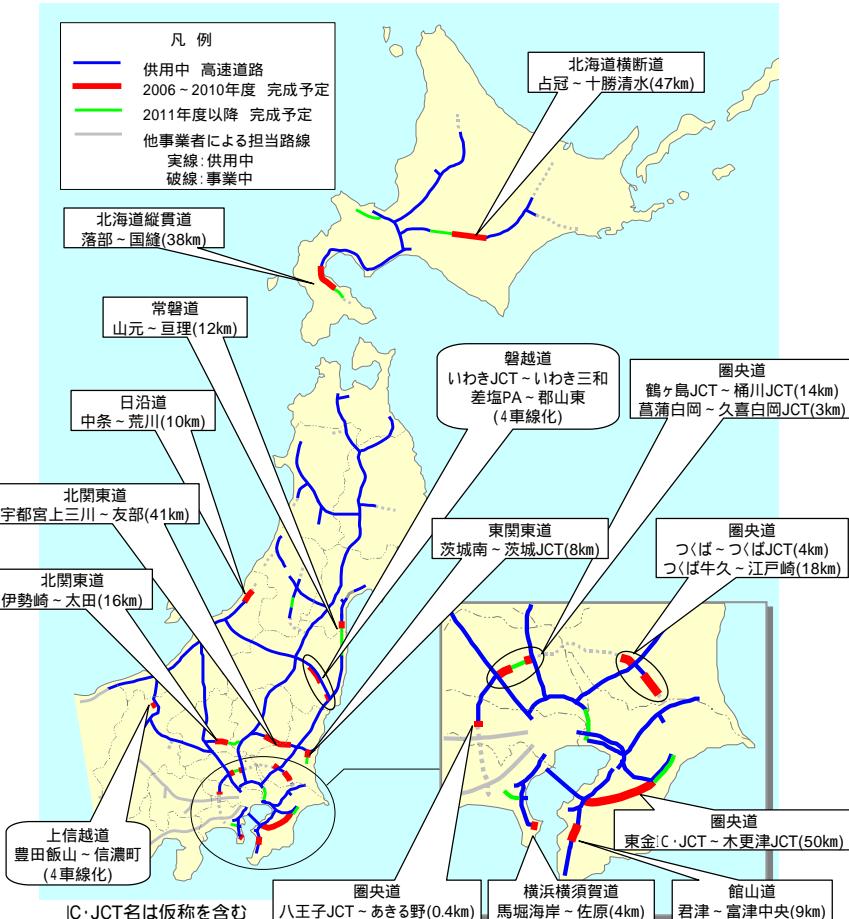
- ▶インターチェンジやジャンクション等の設置や改築を行い、利便性を向上させます。

IC・JCTの追加・改築 : 13箇所

SA・PAの追加・改築 : 5箇所

道路資産完成高 : 823億円

スマートICの本格実施: 社会実験結果を踏まえ、条件が整った箇所より本格実施していきます。
(2006年10月より、11箇所本格実施)



道路建設事業(その2)



2. 環境に配慮した高速道路を整備します。

沿道の生活環境や景観に配慮した道路づくりの推進

- 遮音壁の設置など、沿道の生活環境保全に必要な環境対策を実施します。
- 沿道景観と調和し、公共性、永続性に配慮した道路構造物のデザインを行います。



遮音壁の設置と沿道の緑化



ビオトープの整備

エコロード(自然環境に配慮した道路づくり)の推進

- 動物の移動経路の確保や貴重植物の移植など、自然環境に及ぼす影響を、回避、低減、または代償する措置を講ずることにより、地域の自然を保全します。
- 周辺地域に見られる樹木の植栽など、周辺の自然環境に調和した整備を行うことにより、動植物の生息・生育空間を創出します。



盛土のり面の樹林化



建設副産物のリサイクル

地球温暖化防止と循環型社会形成への貢献

- CO₂の吸収・固定などの地球温暖化防止に資するため、盛土のり面の樹林化を図ります。
- 循環型社会の形成に資するため、建設発生土、コンクリート塊、アスファルトコンクリート塊などの建設副産物のリサイクル及び再生資源・環境物品など、環境負荷の少ない材料の調達を推進します。

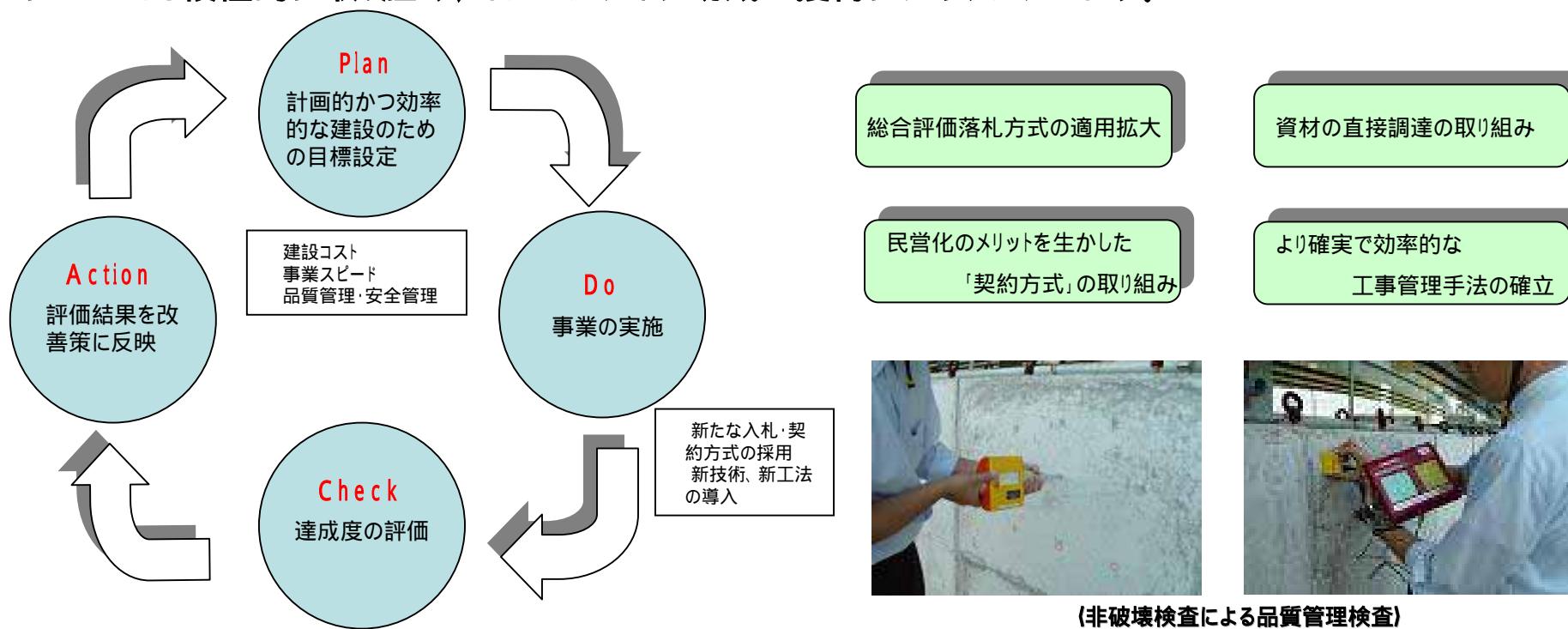
道路建設事業(その3)



3. 建設事業マネジメントの確立、新たな調達方式などにより、コスト削減と品質の向上を目指します。

質の高い高速道路を計画的かつ重点的に建設するため、建設コスト・事業スピード・品質管理・安全管理などについて明確な目標を設定し(Plan)、事業を実施(Do)、達成度の評価(Check)を改善策に反映(Action)する建設事業のマネジメントを確立します。

調達方式や工事管理手法の改善を図り、建設コスト・ライフサイクルコスト(LCC)の削減、品質の確保についても積極的に取り組み、インセンティブ助成の獲得にチャレンジします。



道路建設事業(その4)



道路建設事業の計数目標

	2006	2007	2008	2009	2010	累計
開通延長(km)						
新規供用	41	54	35	91	53	274
4車線化	5	6	11	14	0	36
IC・JCTの追加・改築(箇所)	2	3	2	2	4	13
SA・PAの追加・改築(箇所)	0	0	3	2	0	5
道路資産完成高(億円・消費税抜)	317	1,304	1,258	2,169	1,038	6,086

道路受託事業

技術とノウハウを活かし、国及び地方公共団体等の事業に貢献します。

国と地方の負担による新たな高速道路の整備手法である新直轄方式に、会社の技術とノウハウを活かし事業推進へ貢献します。

新直轄方式への貢献区間(2006年度)

路線名	区間
北海道横断自動車道	本別～阿寒
日本海沿岸東北自動車道	荒川～朝日
日本海沿岸東北自動車道	本荘～岩城
日本海沿岸東北自動車道	大館北～小坂JCT
日本海沿岸東北自動車道	温海～鶴岡JCT
東北横断自動車道	遠野～東和
東北中央自動車道	東根～尾花沢
東北中央自動車道	福島JCT～米沢北
中部横断自動車道	佐久南～佐久JCT



中部横断道 佐久南IC～佐久JCT



打合せ状況



トンネル切羽状況確認

SA・PA事業(その1)



サービス水準の向上と多機能化により、お客様にご満足を提供するとともに、収益の拡大を目指します。

地域の特性を活かしたよりよいサービスをお届けします。

お客様の多様なニーズに応える商品・サービスの提供

▶地元料理の提供を促進

その地域ならではの味が楽しめる個性的な飲食店の導入を目指します。

▶特色ある地域土産品の提供

その地域ならではの特色のある土産品の提供に努めます。

▶農水産物等の地域特産品の販売強化

2010年度までに30箇所程度での展開を目指します。

▶情報発信・販売促進の強化

「ハイウェイウォーカー」の発行等により、売上の拡大を目指します。

▶地域との連携強化

地域との連携を強化し、幅広い周辺観光情報の提供等を行います。

地元料理・土産品の販売例
～(左)上河内SA(下り)、(右)上里SA(上り)～



SA・PA情報満載!!のフリーマガジン「ハイウェイウォーカー」



SA・PA事業(その2)



事業環境の変化に柔軟に対応し、前向きに店舗を展開します。

お客様ニーズ・地域特性・市場動向等を踏まえた最適な施設配置の実現

▶新規エリアの設置(含:建替改良)

次のエリアに商業施設を7箇所配置します。

- ・京葉道路 幕張PA(上・下) [建替]
- ・圏央道 狹山PA(上・下)
- ・北関東道 伊勢崎PA(上・下)
- ・北関東道 笠間PA(集約)

▶SA・PA建物のリニューアル実施

2010年度までに10箇所程度での実施を目指します。

京葉道路 新・幕張PA(上)内観イメージ



京葉道路 新・幕張PA(下)外観イメージ



SA・PA事業(その3)



事業環境の変化に柔軟に対応し、効率的な事業運営に努めます。

➤コンビニ・専門店の導入

現状の7箇所を2006年度末までに14箇所に拡大し、以降、毎年6～7箇所の導入を目指します。

2006年度導入予定箇所	箇所数
津軽SA(上)・西仙北SA(下)・阿賀野川SA(下)・関本PA(下)・日立中央PA(上・下)・山谷PA(下)	7箇所

個性的な専門店の積極的な導入を目指します。

➤運営委託店舗の運営効率化

運営委託店舗について、運営の効率化を図るため、運営者の売上インセンティブを高める契約方式に切替えます。

専門店導入例
～東北道蓮田SA(上)～



コンビニ導入例
～常磐道千代田PA(下)～



新規事業(その1)

新規事業分野を開拓し、事業機会を創造します。

新たな顧客層を開拓するとともに、社会のニーズを踏まえた新たな事業に取り組んでいきます。

高速道路を中心とする経営資源を活用した
新たなビジネスへの進出を図ります。

➤ Web事業の開始(ドライブ支援サイトの開設)

より使いやすい料金検索システム及び多彩な
SA・PA情報の提供と、これに連動した宿泊施
設予約サービス及び通信販売事業の展開

➤ 会員カードサービスの開始

ETC機能、クレジット(非接触)機能を備えた提
携カードの発行

SA・PAでのスマートプラス(ビザタッチ)決済端
末の導入

➤ SA・PAにおける宿泊特化型ロードサイドホ テルの提供

➤ 新たなビジネス機会への挑戦と顧客ニーズ の開拓

【Web事業(ドライブ支援サイトの開設)】



新規事業(その2)



収益性の優れたビジネスモデルを構築し、着実に事業を進めます。

東日本の地域特性、お客様ニーズ、市場動向等を十分に把握して事業を進めます。

- 日比谷駐車場における新商品の開発と効率的な経営の実現
他事業者との連携等による利用促進
- トラックターミナルにおける顧客満足の向上と安定経営の実現
テナントニーズへの対応促進
- 積極的な高架下開発の推進
駐車場の拡充とコンビニ等新業態の導入

【駐車場事業】



【駐車場事業(新商品)】

東京パーク&アート

日比谷駐車場12時間分+東京メトロ1日乗車券+特典ブック+ぐるっとバス (東京の駅周辺等49施設共通入場券)

NEXCO 東日本 JT
東京メトロ ぐるっとバス RUTT 2006

【トラックターミナル事業】



【高架下事業】

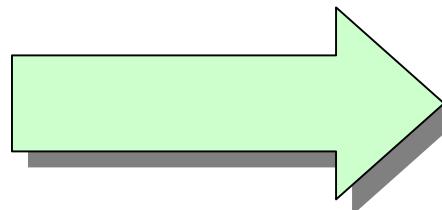


SA・PA事業・新規事業の利益



SA・PA事業・新規事業の経常利益(連結)を2010年度までに倍増します。

2006年度
経常利益23億円



2010年度
経常利益55億円

SA・PA事業・新規事業(連結)の計数目標

	2006	2007	2008	2009	2010
経常利益(億円)	23	29	42	51	55
総資産経常利益率	2.2%	2.7%	3.9%	4.6%	4.8%

【参考】

	2006	2007	2008	2009	2010
店舗売上高 (億円)	1,203	1,225	1,276	1,293	1,302

()店舗売上高は、SA・PAにおけるレストラン・売店・ガソリンスタンドの売上高です。

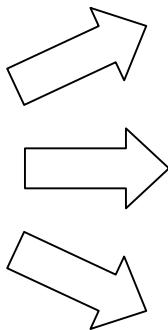
- 4. 経営基盤の確立に向けた取組み

経営管理の確立(その1) - 目標管理制度の導入

目標管理制度を導入し、各組織が経営目標の実現に向けた民間型のマネジメント活動を行う仕組みを構築します。

2006年度下半期から目標管理制度を導入します。

目標管理制度の導入



中期経営計画に掲げた経営目標の達成を目指します

各組織の目標達成努力により会社の業績を高めます

社員がやりがいを実感できる企業風土を育みます

当社の目標管理制度のポイント

- 各組織ごとの収入・費用に係る計画と実績の管理を制度の柱とします。
- 道路の管理水準を維持・向上させる目標を設定します。
- 単位あたりの生産性を測る指標などにより、現場が目指すべき方向性を示します。
- 達成度評価は、客觀性や納得性を重視します。
- 責任と権限を一致させ、各組織の自立と活性化を促します。

経営管理の確立(その2) - 新人事制度の構築



民間会社としてふさわしい新人事制度を構築し、社員のやりがいと会社の業績向上の両立を目指します。

2007年度上半期から新人事制度を段階的に導入します。

- 能力の発揮、役割の貫徹(実績)などを公正に評価する評価制度を導入します。
- 評価結果に基づく査定昇給、査定賞与を導入します。
- 民間会社にふさわしい福利厚生制度の確立を目指します。

社員のやりがいと会社の業績向上の両立

A diagram consisting of three nested shapes: a small blue rectangle at the top, a larger blue trapezoid below it, and a light blue oval enclosing both.

経営管理の確立(その3) - 組織体制の再編



現場重視の経営を基本とし、効率的な事業運営を可能とする組織体制を構築します。また、内部統制システムを構築し、実効性のあるガバナンスを確立します。

現場を重視した効率的な組織体制を構築

- 現場組織に権限を委譲するとともに、本社体制をスリム化し、現場重視の経営体制を構築します。
- 管理会計システムによる現場組織単位のコスト管理体制を構築します。
- 徹底した業務効率化(タスク・ダイエット)を実行します。



実効性のある内部統制システムを構築

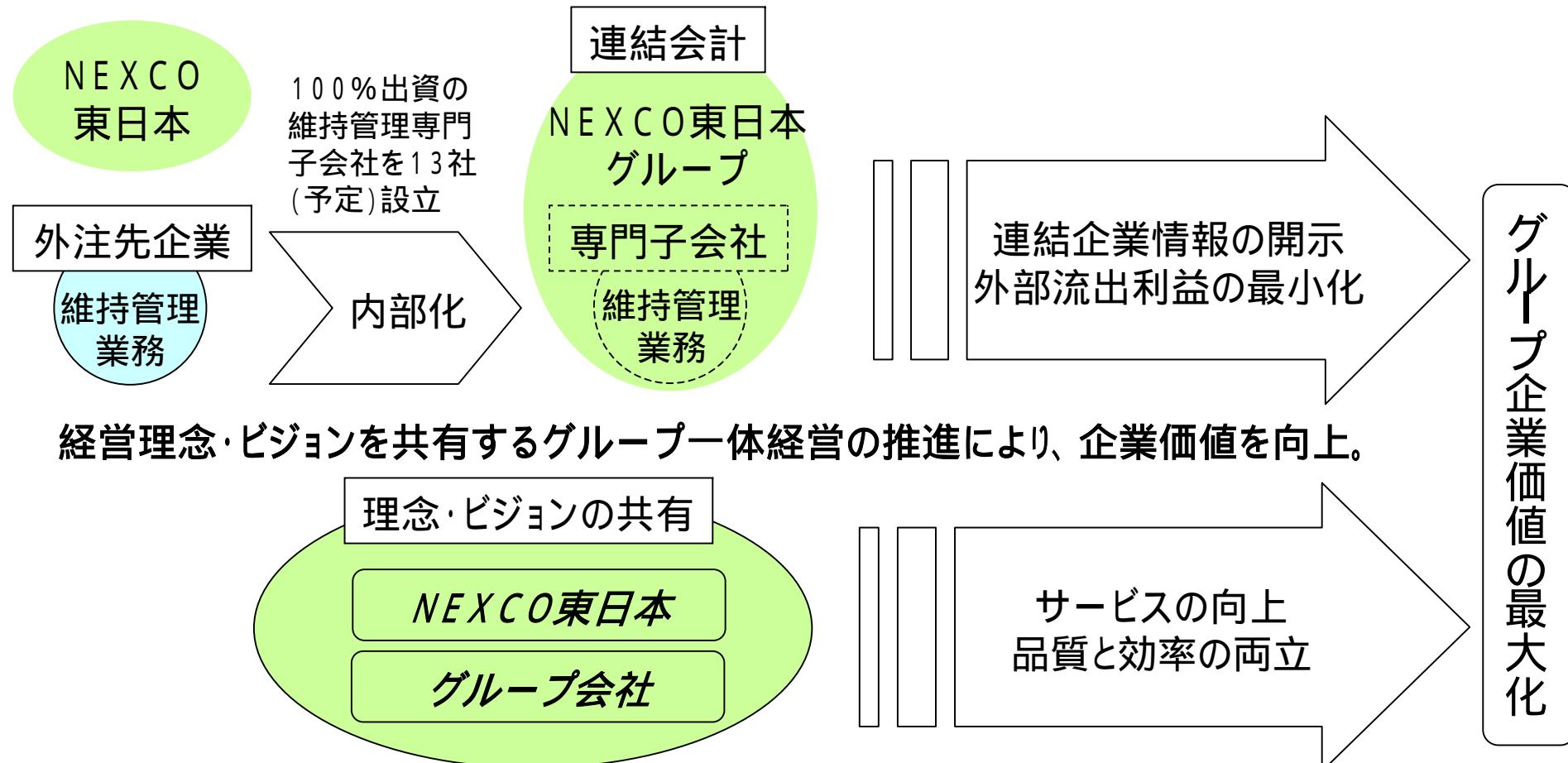
- PDCAサイクルを踏まえた啓発活動によるコンプライアンスの徹底。
- 入札監視体制による審査・分析による談合等不正行為の防止。
- リスクマネジメントサイクルを確立し、リスク管理体制を強化。
- 内部統制システムの構築状況に関する内部監査をリスクアプローチにより重点実施。

グループ経営の確立



グループ企業価値の最大化に向け、グループ経営を確立します。

これまで外注していた道路維持管理業務などの本来業務を内部化し、経営の透明性を向上。



ITマネジメントの確立



システムの全社最適化を図り、効率的な事業実施を実現するとともに、運用体制及び基盤整備の強化を進め、信頼性を向上します。

ITマネジメント体制の確立

- ITマネジメントを確立し、情報システム投資及び運用コストを効率化します。
- 情報セキュリティを強化します。

業務支援の強化

- 業務執行の効率化を目的としたシステムを開発します。

IT基盤の強化

- 事業継続性、効率性を追求したインフラを構築します。



財務体質の維持・強化



資産効率化を図るとともに、適正な財務体質を維持し、経営基盤を確立します。

所要資金の全額自主調達化を図ります。

➤ 2006年度 自主調達比率 43% 2010年度までに100%

資産の有効活用を通じ、資産効率の改善に努めます。

➤ 2005年度末 資産額 4652億円 2010年度まで同一水準を保持

(注) 上記資産には、高速道路機構へ引き渡す仕掛道路資産は含みません。

有利子負債の半減を目指します。

➤ 2005年度末 有利子負債額 625億円 2010年度までに半減

(注) 上記有利子負債には、高速道路機構に引き受けられる予定の債務を含みません。

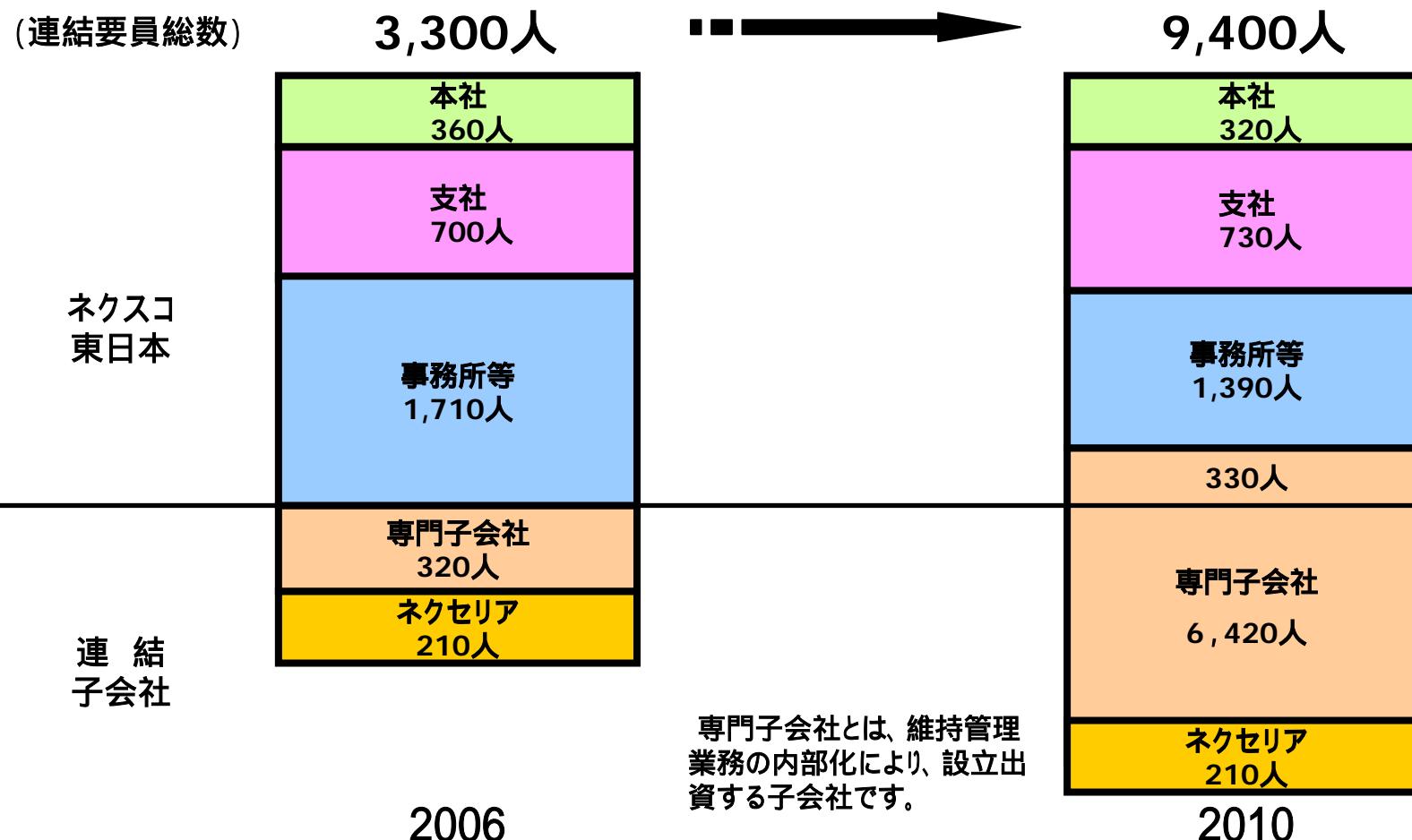
収益の確保に努め、利益剰余金の倍増を目指します。

➤ 2005年度末 利益剰余金 62億円 2010年度までに倍増

中期要員構造(イメージ)



グループ経営の確立にあたり、戦略及び損益を共有する直接出資子会社については、連結要員管理を実施し、相互に人材の有効活用を推進します。



技術開発の推進



「事業の効率化・品質の確保」・「安全・円滑・快適性の向上」・「環境保全」のための技術開発を推進し、技術力の向上に努めます。

中央研究所や現場のフィールドを利用して、「事業の効率化(コスト削減・計画保全)」・「安全・円滑・快適性の向上」・「周辺環境ならびに地球環境保全」のための技術開発を推進します。

➤「道路事業の効率化
(コスト削減・計画保全)
(技術開発の重点要素)
合理的な設計手法の確立
新技術・新工法・新材料の開発
品質の向上
ライフサイクルコスト(LCC) など



トンネル清掃ロボット



➤「安全・円滑・快適性の向上」
(技術開発の重点要素)
交通事故対策
渋滞対策
走行環境の改善
耐震補強 など



高機能舗装

➤「周辺環境
ならびに地球環境保全」
(技術開発の重点要素)

騒音対策
緑化・樹林化
動植物の保護
建設副産物及び植物発生材のリサイクル など



沿道緑化

ブランドの確立



「ネクスコ東日本」のブランド確立を図ると共に、
お客様の「期待・共感」につながる広報企画を展開します。

「会社の顔の見える情報発信」を進めます。

- 経営トップによる会見やインタビューを積極的に実施します。
- 各種メディアを活用して、お客様に役立つ情報の発信に努めます。
- お客様にお楽しみいただける各種キャンペーンを企画・実施します。



ロゴ紹介キャンペーン

地域連携を深める情報収集・発信を目指します。

- 地域有識者懇談会の開催など、地域の皆様との連携を深めてまいります。
- 地域イベントや現地見学会など、お客様とのふれあいを大切にします。
- 体験学習コースを創設など、お客様に高速道路をもっと知っていただく場の提供に努めます。



S A・P Aでのイベント

「お客様センター」を設立し、真摯にお客様の声にお応えします。

- 新たに「お客様センター」を設立し、お問合せ機能の充実を図ります。
- 「お客様の声」を大切にし、お客様の喜びにつながる対策を積極的に進めます。

単位:件						
料金関係	交通情報	道路案内	休憩施設	建設状況	その他	計
75,703 (68.8%)	24,261 (22.0%)	3,791 (3.4%)	1,523 (1.4%)	802 (0.7%)	4,023 (3.7%)	110,103

通行料金	ETC関係	料金制度
37,849 (50.0%)	32,115 (42.4%)	5,739 (7.6%)

いただいた「お客様の声」の状況 (H17.10-H18.3)